

令和 7 年度決算の概況

(1) 総括事項

令和 7 年度においては、「岡山市下水道事業経営計画 2 0 1 6」に基づき、下水道事業の持続的な運営を図りながら、快適で安全なまちづくりに貢献しました。

特に浸水対策については、過去の浸水被害を踏まえ、「岡山市浸水対策の推進に関する条例」に基づき、雨水幹線やポンプ場などのハード整備を進めるとともに、民間の開発行為等に伴う雨水流出抑制施設設置や、止水板設置などに対する補助等のソフト対策にも取り組み、市民、事業者と連携した総合的な浸水対策を進めています。

今後は、これまでの実績を踏まえつつ、令和 8 年 3 月に策定した「岡山市下水道事業経営計画 2 0 2 6」に基づき、急速に進む管路や施設の老朽化対策、激甚化・頻発化する自然災害に備える浸水対策や施設の耐震・耐水化対策及び未普及対策などについても効率的、計画的に実施します。

ア 下水道による汚水処理の状況

事 項	令和7年度	令和6年度	増 減	対前年度比 (%)
処理区域内人口 (人)	490,508	486,605	3,903	100.8%
水洗化戸数 (戸)	171,059	170,392	667	100.4%
年間有収水量 (千 m ³)	52,758	52,577	181	100.3%
普及率 (%)	71.0	70.2	0.8	—

※すべて農業集落排水事業を含む。

イ 建設改良事業

a 老朽化対策・地震対策

老朽化した管きよの更生工事や調査、耐震化の基本計画に基づく重要な幹線管きよの詳細設計、更生工事に取り組みました。

加えて、令和 7 年 1 月に発生した埼玉県八潮市の道路陥没事故を踏まえて、国から要請のあ

った「下水道管路の全国特別重点調査」に基づき管路の点検を約 38km 実施しました。

耐震化の取り組みとして、万成ポンプ場、岡東浄化センターなどの耐震診断を実施するとともに、長寿命化対策として平井排水センターなどの整備に取り組みました。

b 浸水対策

令和 6 年度に完了した浦安 1 1 号幹線（1 工区）雨水管の工事に引き続き、豪雨に対する初期対応の迅速化を図るため、ゲートの遠隔操作化等の工事を継続して実施しました。さらに、令和 6 年度に着手した浦安 1 1 号幹線（2 工区）雨水管の工事を継続して実施しました。

c 未普及対策

笹ヶ瀬右岸幹線及び吉備津・辛川市場・津高・横井上地区など旭川以西の児島湖流域下水道関連処理区の整備や、牟佐幹線及び桑野・藤崎・国府市場・東平島・西大寺浜地区など旭川以東の岡東及び吉井川処理区の整備に取り組みました。

ウ 維持管理

処理場やポンプ場においては、日常の管理の中でコストを意識した運転や、能動的（季節別）管理運転のような下水道の付加価値を高める運転を行うとともに、点検や整備、修繕を計画的に行いました。管きょについても、計画的に点検・調査を行うとともに、清掃や修繕を行いました。

エ その他の取り組み

南海トラフ巨大地震の発生を想定した下水道 B C P 訓練（1 1 回目）を令和 8 年 1 月に実施しました。シナリオ（発災 6 時間後・3 日後等）を設定し、ロールプレイング形式で状況付与することで、より実践に近い訓練を行い、災害対応能力の向上を図ることができました。今回の訓練では、能登半島地震での災害を教訓とし、下水道施設の早期復旧のための現地調査等の手順確認も実施しました。

また、岡山市の下水道を全国に PR するため、大阪で開催された「下水道展' 25」にブー

スを出展しました。「楽しみながら下水道について学んでもらう」ことをテーマに、公式キャラクター「モグリン」のうちわやマンホールコースターの作成体験、浦安11号雨水幹線のパネル展示や工事状況映像などの放映を行いました。

令和7年5月には、浦安11号雨水幹線1工区の完成を記念して、南区で「下水道のチカラ展」を開催し、近隣住民の方など3千人以上が来場し、下水道の役割をPRしました。

オ 財政状況

令和7年度の財政状況については、収益的収支では、事業収益20,417,213千円に対し、事業費用20,417,213千円で、この結果、収支差引0円となりました。

資本的収支では、収入額19,674,728千円から翌年度へ繰り越される支出の財源に充当する額257,985千円を除くと、当年度の収入が19,416,743千円、これに対する支出額は27,068,075千円であり、収支差引7,651,332千円の不足額は、内部留保資金などで補てんしました。

以下のグラフは下水道事業の決算状況を示したものです。

